

自動火災報知設備



取扱い、方法

①



それでは自動火災報知設備の取扱い方法を説明します。

自動火災報知設備をざっくりと言いますと熱や煙、炎を感知して建物にいる人に警報音を鳴らし火災の発生をいち早く知らせるといいうすばらしい消防設備です

②



自動火災報知設備を構成するのは
大きく分けて3つ

①感知器②発信機③受信盤
で構成されています。

感知器とは

熱 煙 炎

自動 感知 設備

煙避難訓練施設
火災による屋の危険性

POINT
機械の目で感知し、警報音を鳴らします

The image shows a man in a dark uniform with a fire on his head, standing in a training facility. The background is red with Japanese text and fire alarm detectors. Three inset images show different types of fire alarm detectors: a white ceiling-mounted detector, a white ceiling-mounted detector with a lens, and a white ceiling-mounted detector with a lens and a small sensor.

③



**感知器とは
主に天井に設置されており
機械の目で熱、煙、炎を感知し
警報音を鳴らすものです。
まずは今いる部屋の天井を
確認して見ましょう。**

発信機とは



④



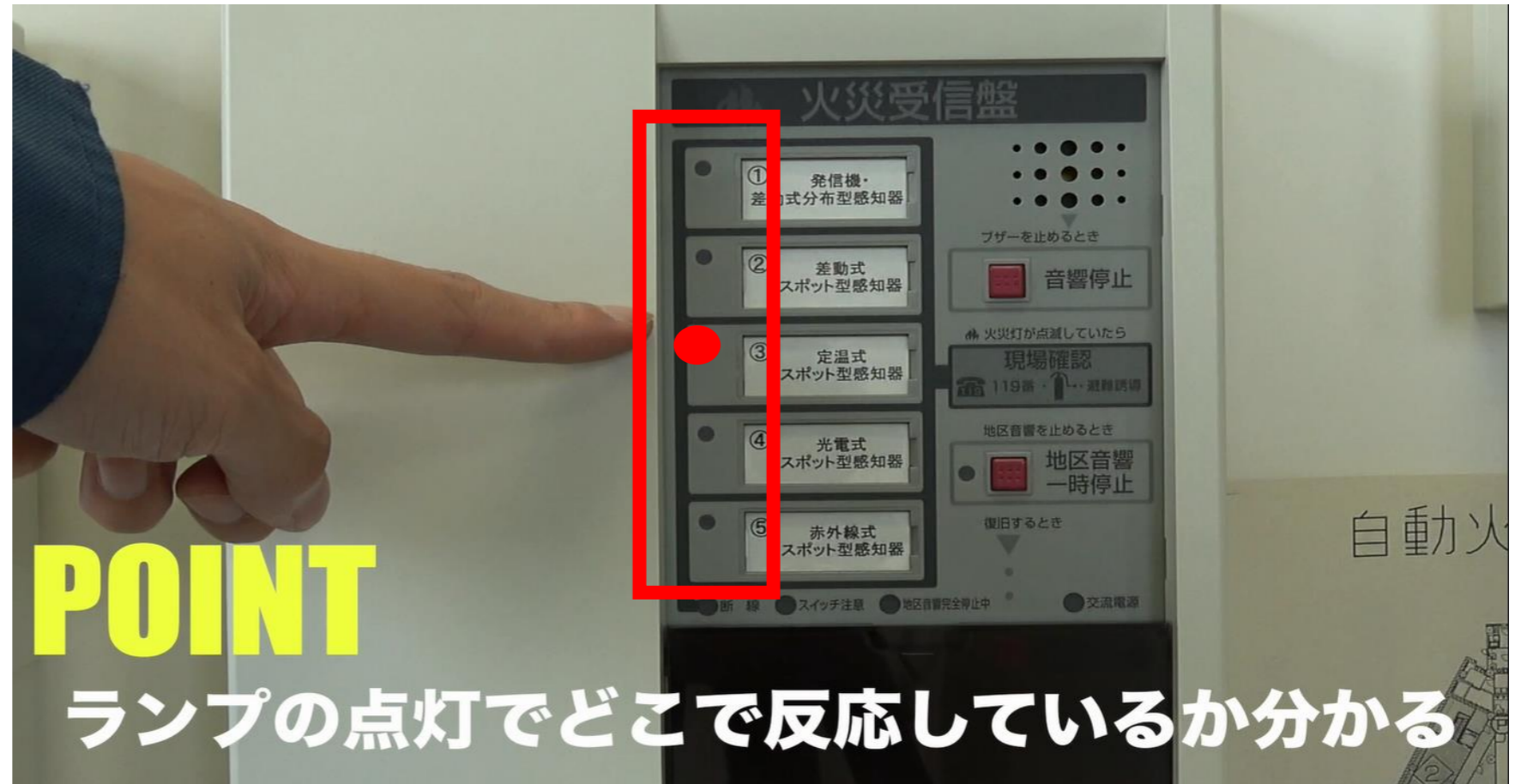
発信機とは

**人の目で火事を確認し、ボタンを押し
警報音を鳴らします。**

**ちなみに発信機は歩行距離50m以内
に設置されています。**

受信盤とは

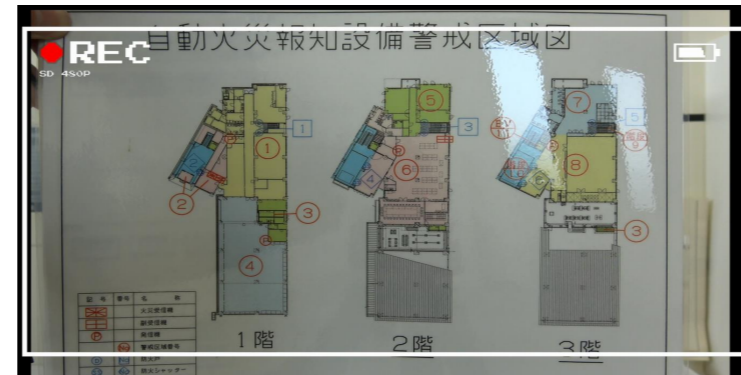
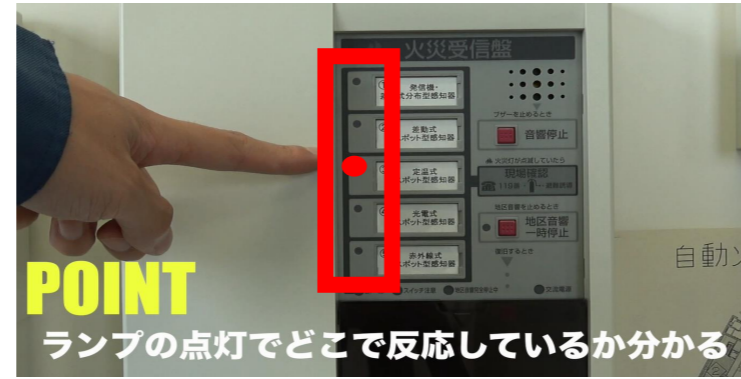
受信盤



警戒区域図



5



**受信盤と警戒区域図を相互に確認し
場所の特定を行い現場に向かいましょう**
**※受信盤の3番が点灯していれば
警戒区域図の3の場所を確認す
るようにします**

自動火災報知設備 実践編

⑥

それではここから実際に自動火災報知設備を使用する流れで説明をしていきます

受信盤の確認 1



POINT

警報音が鳴ればまずは受信盤の確認！

⑦



警報音が鳴れば火災受信所に行き
受信盤の確認に向かいましょう

受信盤の確認 2



POINT

受信盤と警戒区域図の確認をし現場に向かしましょう

⑧



受信盤と近くにある警戒区域図を相互に
確認し場所の特定を行いましょう

現場確認



⑨

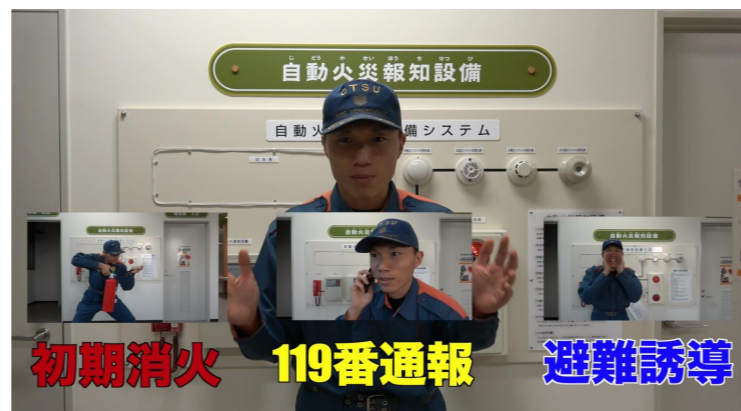


**現場確認の際は近くの消火器を持って
すぐに消火できる体制で向かいましょう
※建物に設置されている消火器の位置
を確認し火事の際にすぐに使用できる
ようにしておきましょう。**

火災確認後の行動について



10



火災を発見すればここから
初期消火
119番通報
避難誘導
を同時進行で実施します。